

梅松苑(大本本部)

大本

大本は 1892 年に綾部で設立された、神道をルーツに持つ宗教です。大本本部綾部祭祀センターとしても知られる大本本部梅松苑は、大本信仰の発祥の地となっています。梅松苑の敷地には緑豊かな庭園や有名な建築があり、一般の訪問者も敷地内に入ることができます。

みろく殿

みろく殿は 1953 年に作られた大本の礼拝堂で、梅松苑最古の建物となっています。この巨大なみろく殿は鉄骨造で、全体にはヒノキ材が使われ、床面積は 1,400 平方メートル以上となっています。またガラス張りの引き戸が建物の 3 面に並んでおり、その中の多くは、1953 年に作られたオリジナルの手吹きガラス板なのです。またみろく殿の屋根は銅板を使った重厚な屋根で、雪が積もるのを防ぐために勾配が急になっており、また屋根の下には裳階（もこし）が付いています。このみろく殿は、2014 年に日本の有形文化財に指定されています。

大本の信者が増えるにつれ、大規模な儀式は 1992 年にできた長生殿で行われるようになりました。今でも信者たちは、みろく殿で先祖や世界中の戦争や災害の犠牲者たちのために祈っているのです。

木の花庵

この 17 世紀半ばの茅葺きの家屋である木の花庵は、かつては岡花家が所有していた民家でしたが、1971 年に大本本部に移されて保存されてきました。木の花庵は農家の家屋の貴重なサンプルであり、1972 年には日本の重要文化財としても指定されています。木の花庵には、かまどと流しのある台所、中央の囲炉裏のある居間、客人を迎えたり養蚕に使われた畳の部屋、そして 家の中で家畜を飼うための場所、と 4 つの部屋があります。

大本の信者たちは、5 日ごとにこの木の花庵を開き、囲炉裏に火をつけ、家の手入れをしています。木の花庵の中に入りたい場合は、予約が必要になります。